

— 思い込み —

私たちが信じるというのでは、一体どういふことなのかを確かめたいと思います。私たちが「信じています」といふ時は、自なり他なりに不安を抱えている時ではないでしょうか。

ひょっとしたらそうではないのかもしれないという不安、つまり「裏切らないでね」といふ思いではなからうでしょうか。

あるいは私の想像の延長線上でならわかります、という意味で「信じる」と言っているのかもしれませんが。

私が納得したからそれが正しいという思惑とどういふのです。そうであればかなり危険なことかもしれません。なぜならば、私の知りうることが真実とはいいがたいからです。

私の計らいで「信じる」といふことは迷いの可能性がとても高いのではないかと疑うべきことなのです。

こんな体験があります。私が高校生の頃の事です。

夜中までゲームをしており、寝ればいいのに休憩しようとして、台所に紅茶を飲みに行ったのです。

最近ではあまり見かけませんが、缶入りの粉末レモンティーがありました。

私はそれが好きなので飲むことにしたのです。となりは居間、ガラス戸で仕切られていました。父が寝ていたので廊下の明かりだけで作ることにしました。

暗い中、休憩を終えて部屋に戻ろうとしました。さすがに片付けないと母の手間になると思い、片付けるために明かりをつけたのです。

するとどうでしょう、レモンティーの缶だと思っていたものにはアップルティーと書いてあったのです。

どういふ事でしょうか、私はすぐに作り直して飲んでみました。

それはしっかりとアップルティーの味がしました。しかし私が飲んだのはレモンティーのはずです。

